

第7回 横浜市バリアフリー検討協議会 議事要旨

日時：平成30年3月22日 10:00～12:10

場所：横浜市研修センター4階 401・402号室

議事1 バリアフリー基本構想の策定状況と特定事業の進捗状況

(委員)

最初に策定した関内駅周辺地区と鶴見駅周辺地区では具体的にどのような事業が未着手となっているのか。

(事務局)

関内駅周辺地区では歩道の平坦性の確保が周辺建物と歩道との高さが決まっているため、整備が難しいとのことで未着手となっている。鶴見駅周辺地区ではバスターミナルの案内の改善やベンチの増設が事業として位置付けられているが、複数のバス事業者がいるため、案内の統一が難しく未着手となっている。

(委員)

歩道の平坦性が確保できていないところは市内の至る所でみられる。特に電動車いすの方は雨の日にスリップする危険性があり、外出を控えている。学識経験者の方々に障害者・高齢者の方に歩きやすい歩道になるように検討していただく機関を設けてほしい。

(委員)

歩道がうねる原因は道路と建物の差を歩道で調整しているため起こる。場所によって状況が異なり、一律の基準とすることは難しいので、個々の事例を集め、整備の参考にしていくことが必要だと思われる。

(委員)

割引制度等を窓口で相談する機会があるため、各駅において統一的な対応をできるようにしてほしい。

(委員)

市内で歩車道段差について、2センチメートルから5ミリメートルとするセイフティブロックの検討が進んでおり、横浜市視覚障害者福祉協会で何度か説明していただいたが、中には賛成意見もあるが、反対意見もあり、歩車道の段差については全国的に統一したものを整備してほしい。

(委員)

今後、オリンピックパラリンピックが開催される中で案内等の言語についてどのような取り組みを行うのか。

(事務局)

バリアフリー基本構想とは別だが、横浜駅や関内駅、新横浜駅など、案内サインの多言語化について進めている。

議事2 各事業者の取組紹介

(東日本旅客鉄道株式会社)

声掛けサポート運動の取組を強化している。また、駅の社員を中心にバリアフリーの勉強会を実施し、例えば車いすの介助方法、視覚障害者や高齢者の疑似体験を通して理解を深めている。

昨年春に関内駅北口のエレベーターの供用開始。菊名駅は先日、ラッチ内のエレベーターを供用開始。石川町駅は元町口にエレベーターを2台設置、道路との段差解消工事を行っており、来年春に供用開始予定。

ホームドアを2032年度末頃までに東京圏にある在来線の乗降客数10万人を超える約320駅で整備を実施する。

(東海旅客鉄道株式会社)

ソフト面については JR 東日本と同様の取組を実施。

新横浜駅ホームの可動柵は 30 年 3 月に上りホーム 1 番線に整備が完了し、4 つあるホーム全てにホーム可動柵を設置。

新幹線改札口にある運行状況の電光掲示板の改修と、スマートフォンやタブレットにはより詳細な運行情報を提供できるような環境整備を予定。

現在、全ての新幹線駅で無料 Wi-Fi 利用できるようになっている。車内の無料 Wi-Fi は東京オリンピックパラリンピックの開催に間に合うように整備を進めていく。

(東京急行電鉄株式会社)

エレベーターの整備状況については、2014 年 2 月に全駅 1 ルートでの整備を完了している。

新造車両については、全車両にフリースペースを設置予定。

ホームドアについては、2019 年度末までに横浜市沿線の全駅で設置予定。

遅延や運休発生時等の情報提供については、全駅に設置済の駅構内 LED やお知らせモニターのほか、スマートフォンのアプリなどで行っている。

窓口対応については、筆談器やコミュニケーションボードを活用し、わかりやすい案内に努めている。

駅員全員へのサービス介助士の資格取得を行っているなど、介助技術のレベルアップを図るとともに、心のバリアフリーの意識付けを行っている。

(京浜急行電鉄株式会社)

声掛けサポート運動を実施。全駅係員・乗務員にサービス介助士の取得を進めている。

ホームドアについては 2018 年度に横浜駅、上大岡駅のホーム補強工事に着手。横浜駅は 2019 年中、上大岡駅は 2020 年中の完成予定。

金沢八景駅の駅総合改善事業について、2018 年度中の新駅舎への切り替えを完了予定。金沢シーサイドラインへのスムーズな乗換えが可能になる。

(相模鉄道株式会社)

他の鉄道事業者と共同で行っている声掛けサポート運動の実施や駅係員や乗務員に対する接遇向上のセミナーを開催。

ホームドアは海老名駅、大和駅、二俣川駅、湘南台駅を優先に設置し、平成 34 年度末までに全駅で設置予定。

平成 31 年度下期の JR 東日本との相互直通、平成 34 年度下期の東急電鉄との相互直通に向けた建設工事を実施しており、新設される羽沢横浜国大駅と新横浜駅についてはホームドアを開業時に設置予定。

(横浜市交通局)

地下鉄駅のバリアフリー整備は平成 23 年度末に全駅で完了しているが、横浜駅と上大岡駅について更なる移動の円滑化を行う。

横浜駅では地下鉄から JR の南改札、相鉄の改札に向かう階段にスロープを設置、上大岡駅は京急側の改札側にエレベーターを設置予定。

(株式会社横浜シーサイドライン)

金沢八景駅については都市整備局の土地区画整理事業とあわせて、京浜急行の金沢八景駅東側に新しい駅舎を整備する工事を実施している。

京急とシーサイドラインを結ぶ自由通路について、エレベーター等でバリアフリー経路が確保される。

シーサイドラインは無人の自動運転にしており、ホームドアについては全駅に設置してある。

(国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所)

星川駅周辺地区や大口・子安駅周辺地区の視覚障害者誘導用ブロックの整備や杉田駅・新杉田駅周辺地区の歩道の照明の整備を実施。

鶴見駅周辺地区の国道15号の地下道のエレベーターについては今年度中に2機設置し、4か所全ての供用開始予定。

今後は金沢八景駅前の整備、金沢文庫駅・金沢八景駅間の無電柱化事業の歩道復旧と阪東橋駅周辺の整備を行う予定。

(横浜市道路局)

横断歩道等における歩車道境界の段差に関する検討について、横浜市では2センチメートルの段差を標準としているが、望ましい構造について皆様の意見を伺いながら市の対応の方向性について検討を進めている。

平成28年度に都筑区すみれが丘地区において、神奈川県で採用している歩車道の段差が5ミリメートルのセイフティブロックを試行整備しており、今後、二俣川駅南口駅前についても試行整備する予定となっている。

現時点で、セイフティブロックを採用することで決定した訳ではないので、引き続き皆様のご意見を伺ったうえで、今後、横浜市としての対応、採用の可否等も含めて検討する。

(一般社団法人神奈川県建築士事務所協会)

狭い土地の中で建築物を計画すると、基準を満たす整備をすることが難しい場合がある。高齢者の利用率が高まっていく中で、視覚障害者誘導用ブロックに高齢者がつまづくなど別の問題が出てくる可能性があるため、入口付近に案内する人を配置するなど心のバリアフリーが重要になってくると思われる。

(神奈川県警察本部)

各バリアフリー基本構想の交通安全特定事業計画に基づき、横断歩道や音響式信号機等について補修・整備を実施している。

その他に交通障害になっている駐車違反車両の取り締まり等について実施している。

(委員)

道路標識が消えているものの改修をぜひ実施していただきたい。

(委員)

少子化時代ではあるが、ベビーカーの方々がバリアフリーで移動できるように、子育て世代として周知することも重要。

(委員)

ハード整備は色々な形で進められており、特にホームドアについては積極的に整備していると感じている。ソフト面について、社員教育を各社が実施されている。また、情報提供等のアプリについては開発が進んでいると感じているが言語等の多様な伝達手段が必要となると思われるので、開発を進めていく必要がある。

共通した案内情報の提供などの課題を解決していくには各地区のバリアフリー基本構想の中でまとめていくことが重要であると思われる。

以上